

# 同志社講座 2018春休みスペシャル

3月の講座ご案内 **会場** 同志社大学東京サテライト・キャンパス セミナー室 **お申込み** 裏面をご利用ください

## 源氏物語 桐壺の巻を読む

シーズン 3

大島本源氏物語 桐壺を教材に、読んでいくシリーズ今回は3回目。途中から受講の方にもわかりやすいお話が好評です。毎回1~4回は岩坪教授と「桐壺の巻」を読み、5回目は京都で実施します。今回は、源氏物語絵巻の復元をされた日本画家 岡田元史氏をお招きし、復元された二十面の作品を拝見しお話をお聞かせします。

3/1(木) 1,2回

2017年春・秋に続き、桐壺の巻の最終回です。今回は光源氏が7歳になり学問を学び始めたときから、12歳で元服して結婚するまでを取りあげます。光源氏は3歳で実母、6歳で母方の祖母を亡くし、孤児同然になります。父の帝が宮中に引き取り、教育を施すと、たちまち才能を発揮します。また、子どもの時から、彼の美貌は評判になりました。

3/22(木) 3,4回

今回、読む箇所では、光源氏が理想の女性と仰ぐ藤壺の宮が、初めて登場します。藤壺は桐壺帝の妻です。光源氏にとっては義理の母になります。なぜ幼い光源氏は藤壺に魅せられたのか、今回初めて受講する方にも分かるように、お話します。

春のひと時、源氏物語の世界に浸ってみませんか。

3/29(木) 5回 「源氏物語絵巻の復元」



竹河

源氏物語絵巻は源氏物語のおよそ百年後に制作され、大和絵の最高峰とされています。その復元は、技法のみならず当時の風俗、習慣、美意識等、得るべきものが多々あります。そこで、実物の観察と図版等をもとに、現存する二十面の絵を復元しました。後世の補彩が多く、剥落、変色も甚だしく、推定に依らざるを得ない部分もありますが、絵具等の画材は当時も現在もほとんど変わっておらず、ほぼ忠実に復元できたと考えています。



蓬生

ゲスト講師 **岡田 元史**

1954年生まれ。東北大学工学部応用物理学科卒 京都市立芸術大学大学院修了(日本画専攻)第一回源氏物語アカデミーに参加 世界デザイン博覧会・メインホール緞帳原画制作 祇園祭「郭巨山」後掛原画制作

講師 **岩坪 健** 同志社大学 文学部教授



1957年京都市生まれ。1981年京都大学文学部国語学国文学科卒。1989年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。

1991年「源氏物語古注釈の研究 -中世源氏学の流れ-」で文学博士。1989年「源氏物語の二段階位授について-河内方と四辻善成・一条兼良をめぐって」で第16回日本古典文学会賞受賞。2014年「源氏物語の享受 注釈・梗概・絵画・華道」で第15回紫式部学術賞を受賞。

### 開催概要

回数 全5回 定員50名

日時・会場 第1~4回 3/1(木)、22(木)

1回 13時~14時30分(休憩15分)  
2回 14時45分~16時15分

東京サテライト・キャンパス セミナー室

第5回 3/29(木)

14時~15時30分

同志社大学 今出川キャンパス 良心館412

受講料 5回一括 15,000円  
1~4回のみ 12,000円  
5回目のみ 5,000円

教材 「大島本源氏物語」森一郎(編) 和泉書院 1,404円(税込み)

\*2017年開催の本講座で使用した教材です。お申込み時に教材 必要、不要をお選びください。

## 「韓国、文在寅政権のゆくえ」 -朝鮮半島のこれからを考える-

3/2(金)

19時~20時30分

講師 **太田 修**

同志社大学 グローバル・スタディーズ研究科 教授



1963年兵庫県出身。同志社大学文学部卒業、高麗大学校大学院史学科博士課程修了。佛教学部教授を経て、2010年より同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授。専門は朝鮮近現代史・近現代日朝関係史。主著「朝鮮近現代史を歩く-京都からソウルへ」(思文閣出版、2009年)、「(新装新版)日韓交渉-請求権問題の研究」(クレイン、2015年)

朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の核・ミサイル問題をめぐって東アジアの対立と緊張が高まり「米朝戦争」の危機が取り沙汰される中、2017年5月に誕生した韓国の文在寅政権はいっそう難しい舵取りを迫られている。そもそも文在寅政権はどのような歴史的潮流の中で誕生したのか。政権発足から半年余りが過ぎたが、その間の国内政治、北朝鮮問題への対応、日韓関係はいかなるものだったのか。ますます緊迫する北朝鮮問題、ざくざくした状態が続く日韓関係に、今後どのように対応していくのか。文在寅政権のゆくえ、朝鮮半島のこれからを考えてみたい。

## 「生物に学ぶ、未来の技術」 -生物ソナー・コウモリの超音波センシング術-

3/20(火)

18時30分~20時

講師 **飛龍 志津子**

同志社大学 生命医科学部 教授



京都府出身。同志社女子中学・高等学校卒業 同志社大学大学院工学研究科修了後 日本アイ・ビー・エム株式会社に入社。2003年同志社大学大学院工学研究科博士後期過程に入学後コウモリの生物ソナーに関する研究を始める。博士(工学) 2013年文部科学大臣表彰若手科学者賞。2014年よりJSTさきがけ「社会と調和した情報基盤技術の構築」研究員。専門は生物音響工学。コウモリの生態学から工学応用に関する研究を行っている。

身の回りのあらゆるものにセンサが搭載され、ネットワークにつながるIoT。センシング技術は今、私たちをビックデータ社会へと導き、また自動運転技術に代表される視覚情報を優先する設計思想は高速化・効率化が叫ばれつつも、より「手厚い」センシングへとその技術は指向しています。一方、生物が生きるために獲得してきた様々な機能には、私たちが創り出す技術には無い斬新なアイデアが秘められていることが多々あります。本講義では、生物ソナーと呼ばれる「コウモリ」をテーマに、彼らのシンプルかつユニークな超音波によるセンシング術を紹介します。生物の知恵や工夫に学ぶことで、未来に役立つテクノロジーと一緒に考えていきたいと思います。